

## 『言霊の科学』

## 音が「意味」するものとは 6

古

来、日本人は言霊を体感し、信じてきました。私も「音声から脳や精神の状態を分析するST (Sensibility Technology)」、音声から脳を分析して病気を診断するPST (Psychoanalysis System Technology)」を研究開発してきたなかで、この「言葉が現実化する」という概念に突き当たります。

しかし、そこでは本当の心(脳の活動)と行動が伴ってこそ実体化することが科学されてきました。

わかりやすく言えば、深刻な状況を知りつつも問題を先送りする、「今のところ大丈夫です」という言葉や、凍える被災した幼児や老人の横で、宇宙服のような防護服を着こみながら「安心してください、大丈夫です」という政治家の言葉があります。一方、天皇陛下が事態を深刻に受け止め、自ら放送された「平成の玉音」といふべき言葉がありました。

この二つの属性が異なる言葉の結末は、「大丈夫です」が「想定外」という

結果により収束し、一方、陛下の「平成の玉音」は、お体ご不調のなかで「被災者への愛と労い」のお言葉として今でも人々の記憶に鮮明に残っています。

さて、私はこの二つの属性の公的な発言の音声分析をしました。陛下の声の分析するなど私にとってはおこがましい限りですが、どうしても腑に落ちないことがあり、ついやってしまいました。

結果は見事に「今のところ大丈夫です」「安心してください、大丈夫です」には脳とかい離れた情動反応が出ていました。陛下のお声は、素直で、冷静で、静かな憤りに近い反応と深い悲しみに満ちた声でした。

言霊は、発する人の品性と信念よって人を動かす力を持つことも、言霊により自らを窮地に追い込む力も備えています。陛下の言霊は、それを聞いた米軍と米軍が事態を把握し、急速に事態に対応しました。それに押されてようやく自衛隊が前面に立ち、収束に向かいました。

文 光吉俊二

text by Shunji Mitsuoyoshi

その言葉が一体誰に向かつて発せられたのか。脳の感情、情動が声帯を通して外部にアウトプットされ声として伝わったのです。

陛下の真情あふれるお言葉が世界に伝えられていなければ、大惨事の収束はさらに大幅に遅れていたことは明らかです。

なるほど「言霊」を知ればすべてが納得できると一人で勝手に腑に落ちた次第です。



## Profile

日本の情報工学者であり彫刻家。北海道札幌市出身。多摩美術大学美術学部彫刻科卒業。徳島大学大学院工学研究科博士後期課程修了、現在、博士(工学)。元スタンフォード大学バイオロボティクス研究所 Visiting Scientist (客員科学者)。現在、東京大学非常勤講師、株式会社AGI代表取締役である。専門は、ST (Sensibility Technology) 感性制御技術・VER 音声感情認識技術、音声脳神経分析技術。